



## 72年の自分史 ～数々の出会いに感謝～

医療法人静風会 八木クリニック 院長 | 八木 静男



6回目の年男にちなんで、出会いの大切さを中心に一筆したためさせていただきます。昭和29年3月14日鹿児島県鹿屋市古江町生、草牟田小⇒城西中⇒鹿児島中央高校⇒高等予備校を経て昭和49年金沢大学医学部に入学しました。合否発表の前日に新聞社に問い合わせたところ、「八木静男さんですね、合格していますよ！」との回答、今は亡き両親と大喜びしたのは今でもはっきり覚えています。入学式後の初めての会合で、早速一生の友人となるN氏との出会いがありました。N氏は先日大地震の被害にあった能登の蛸島の出身です。入学4ヶ月後に鹿児島に遊びに来てくれた際に一緒にサッカーボールを蹴ろうと声をかけました。しっかりしたキックをするのにびっくり、お互いに高校時代にサッカーをしていたこと、初めての告白でした。2年生になったらサッカー部に入ることとし、1年間はお互い好きなことをやろうと決めました。お互いの友人のいる東京にサッカーのワールドカップ決勝（オランダ対ドイツ：ヨハンクライフ対ベッケンバウアー）を

観に行きましたが、私は友人のY氏と飲みすぎてしまい、肝心の決勝戦は観られませんでした。帰りの列車では特急券を車外に風で飛ばされ、小諸駅で途中下車し、自身の腕時計を質屋に入れて、その換金で二人無事に金沢まで帰ることができました。片町・香林坊で飲んだ後には天下の名園である兼六園の霞ヶ池で2回泳ぎ、白鳥と遊んだことも良い思い出です。サッカー部の自分が泳いだことを聞きつけたラグビー部の一人が霞ヶ池で泳ぎ、警察（新聞）沙汰になりました。本当に申し訳ないことをしたなあ、と心から反省しました。

2年生から入部したサッカー部でも出会いがありました。N氏と小生を含めて同級生が6人おり、鶴丸高校出身のS氏、あとの3人は静岡県の出身でした。3年の時には、石川県社会人リーグの一部で（医学部単独のサッカー部で）優勝して、北信越大会に出場しました。対戦相手は当時の新潟イレブン（現在のJリーグ、残念ながら今年度J2降格のアルビレックス新潟）でした。結果は6対1で完敗でしたが、その試合で1点決めたのが上述のN氏です。N氏、S氏の他に富山県出身の二人を含めて一生の宝物といえる仲間との出会いがありました。我々5人を自身で称して、“ゴレンジャー”，またの名を“地球防衛軍”，さらには“小立野（医学部があったところの地名です）良い子の会”と称して、悪いことばかりしてしていました。昭和55年の卒試、医師国家試験を無事乗り切り、医師になることができましたが、卒業後はどの診療科に入局するか、決めていませんでした。金

沢大学泌尿器科の当時の久住教授にある飲み屋さんで会った際に、足の指先を指して、「こんな田舎に帰らんで、金沢に残らんか！」と言われたのが決定打となり、鹿児島に帰ることとしました。故大井好忠助教授の泌尿器科にかかる情熱に惹かれ、入局を決めました。故阿久根格先生からの懇切丁寧な教えも絶対に忘れません。数々の関連病院で臨床に携わり、昭和 61 年には東京大学医科学研究所で腎移植の臨床研修をさせていただき、鹿児島大学での腎移植の黎明期に携わりました。平成 13 年 10 月には故大井教授とともに、「血液浄化療法部」を立ち上げ、同部の助教授（現在の准教授）として、血液浄化のセンター化に奔走しました。血液浄化療法部時代は第二外科（心臓血管外科）の坂田隆造教授をはじめとして多くの先生たちとバトルしましたが、そこでも旧第二外科の渡邊先生、井畔先生、濱田先生などに励まされたことも強く印象に残っています。当初からそこでの勤務は 3 年間で決めており、平成 16 年 10 月鹿児島大学を退職。平成 17 年 4 月、現在の「八木クリニック」で「内科・泌尿器科・血液透析」

さらに“腎血流評価の意義”を中心に、事務長を含め素晴らしいスタッフに囲まれて一町医者として臨床に関わっています。長い間ご指導いただきました泌尿器科同門の先生方、ならびに多くの関係者の皆様に心から感謝の気持ちをお伝えして、ペンを置きたいと思います。

